

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②学びを深めるための「他者との対話」の充実【校内研究】	①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」の質問項目に対して「とても」と答えた児童が3割弱であった。日常的に豊かな言語感覚を身に付ける環境を整え、児童が意欲的に学習に取り組む手立てが必要である。 ②「他者との対話」活動を好む児童は多い。対話・交流から得た学びが自分の考えを広げ深めるものになっていると実感する学習を積み重ねる必要がある。	①授業時間の始め5分間位で、「5分間日記」「言葉集め」「味見読書」「音読」などに継続して取り組み、日常的に楽しみながら言語感覚を豊かにする活動を取り入れ、アンケート回答のポイント上昇を目指す。 ②対話・交流の目的や内容を学習課題に合わせて明確に設定し、児童が、自分の考えを対話・交流によって更新していく振り返りの時間を確実に設定する。
社会	①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】 ②資料提示の工夫【校内研究】	①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」の質問項目に対して「とても」と答えた児童が3割弱であった。政治や歴史の内容について、自分とつなげて捉える意識をもたせ、自分に関わることとして学習に取り組むようにさせたい。 ②教科書や資料集などの資料を見て、気付いたことや疑問を書ける児童が多いが、一部、取り組めない児童がいる。	①時事的な話題を生活と結び付けたり、過去の歴史と現在の状況の関連に注目させたりして、学習への意欲を高める。政治に対する意見や、歴史の資料をもとにした自分の仮説など、互いの意見を大切に聞き合う雰囲気をつくり、様々な意見をもとに自分の考えを深めていく楽しさを味わわせる。 ②端末にデータ資料を送り、拡大して見ることができるようしたり、画面上に書き込みをできるようにすることで、苦手な児童が取り組みやすいようにする。
算数	①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【学校経営方針】 ②考えや気付きを式や図、グラフ等を活用しながら伝える活動の充実【校内研究】	①7月実施のベーシックドリル診断テストの結果では、正答率が7割を超えた児童が、42%と、4月の実施に比べて5%上昇した。 ②令和4年度全国学力・学習状況調査の結果では、飲み物に含まれる果汁の割合を求める問題の正答率が32.8%と低い水準にある。また、無回答の割合も高く、伝える活動につなげるためには、まず問題解決の方法を定着させる必要がある。	①単元のはじめに行うレディネステストの中に、ベーシックドリルで扱っている問題を出題する。正答率から苦手な領域・問題の傾向を分析し、授業改善に生かしていく。 ②問題解決の方法の吟味を授業の前段で行っていく。合理的で簡単な方法について確認・共有し、他の方法については、応用として取り扱っていく。
理科	①教科担任制による「わかる」授業の充実【学校経営】 ②具体的な活動や体験の充実【校内研究】	①令和4年度全国学力・学習状況調査の結果では、問題別にみると、「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く。」問題の正答率が低くなっている。実験の結果を根拠に考察する力を身に付けることが課題である。 ②令和4年度全国学力・学習状況調査の結果では、実験器具の名称を問われる問題での正答率が低くなっている。実験の方法や器具についての知識の定着が課題である。	①実験の結果から考察する活動では、友達と意見交流する活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。また、自力解決が難しい児童には、 <u>話型</u> を示すなどの手立てを用いて自分で考察できるようにする。2学期以降の「思考・表現」のノートC評価の減少を目指す。 ②自然事象との対話を大切に、 <u>実験・観察の体験を積み重ねていく</u> 。実験・観察の際の手順や器具の使い方等も定着するよう繰り返し指導する。2学期以降の「知識・技能」の平均点上昇を目指す。
音楽	①めあてと振り返りのある「分かる」授業の充実【学校経営方針】 ②視点を明確にした丁寧な振り返り【校内研究】	①アンケート項目「授業中、すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童は約80%であり、児童が主体的に授業へ参加していると思われるが、残りの20%の児童に対してのアプローチをさらに改善し、全体的な授業改善を必要とする。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」では、約80%の児童が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しているが、実技などの個人差のでの学習もあることから、個人のレベルをさらに引き上げ、「できた」を実感する学習が必要である。	①この数年コロナ禍で、歌唱、吹奏楽器への取り組みが減ったため、 <u>苦手意識が強く目立つことから、全体のバランスを見ながらも個人へのアプローチを充実させた授業作りを行う</u> 。また、 <u>細かく指導をくぎり、「できた」「わかった」を積み重ねた授業を行う</u> 。 ②今年度の学習発表会を目標に、全体で演奏する楽しさを味わわせるとともに、周りの友だちと協力し合い、積極的に取り組めるようにする。具体的には自分が演奏していない時間はほかの楽器の演奏を聴き、自分がその音楽の一員だということを意識させることで、自分の演奏をする時の振り返りにつなげる。

<p>図画 工作</p>	<p>①児童が「自分(たち)の学習を自分(たち)でつくる」授業の充実【学校経営方針】 ②学びを深める「他者との対話」の充実【校内研究】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が99%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②互いの作品を鑑賞し合ったり、共同して製作したりする活動を行い、他者の考えや表現方法を学び合っている。</p>	<p>①引き続き児童が表し方や材料を自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりに努め、今後のアンケートでも「すすんで学習している」という質問項目に対して95%以上の肯定的な回答を得られるようにしていく。 ②互いの作品を鑑賞したり、共同して製作したりする活動では、どのような点に注目したり留意したりして関わり合うのかを提示し、対話するだけに留まらず、学びを深めていけるようにする。単元末の児童の振り返りで、授業者の授業改善方法を振り返る。</p>
<p>体育</p>	<p>①運動の日常化、体育的活動の充実【学校経営方針】 ②ふり返り活動の充実【校内研究】</p>	<p>①②校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」と答えた児童の割合が、5～6割程度であった。低・中学年児童(7～8割程度)に比べ、意欲が低い水準にある。「授業中、集中して取り組んでいる」という質問項目に対して、1割程度、否定群の児童がいる。以上の観点から、児童一人一人の運動に対する意欲を引き上げていくことが本校の課題と言える。</p>	<p>①主運動につながる運動を充実させる。ウォーミングアップや授業の前段に「BGMを用いる。」「難易度の低い運動やゲームを取り入れる。」など、児童が運動に親しみやすいような学習環境、運動内容を選択し、意欲の向上につなげていく。 ②ワークシートやタブレット端末等を用いながら、ふり返りを行わせていく。2～3学期の授業アンケートでは、体育の授業に対して否定的な児童の割合が、1割未満になるよう取り組んでいく。</p>
<p>家庭</p>	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】 ②学びを深める「他者との対話」【校内研究】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、4項目とも「とてもそう思う」と答えた児童の割合は、4割未満だった。個人での調理活動は意欲的に取り組んでいた。調理活動のように、コロナ禍でも活動や実習ができるよう、学習活動の見直しが必要である。 ②自分の身の回りから問題を見つけていくことに難しさを感じている児童が多い。「他者との対話」を効果的に学習活動に取り入れ、児童が「できた」「わかった」を実感できる授業作りが必要である。</p>	<p>①授業に主体的に参加できる機会を増やすために、タブレット端末を効果的に用いて、児童から多様な意見や考えを引き出す。特に2学期の製作活動では、児童がめあてを達成する楽しさを味わえるよう、毎時間のめあてを児童にとって分かりやすく明確に設定していく。アンケート回答のポイント上昇を目指す。 ②①と同様に、タブレット端末を効果的に用いて、児童から多様な意見や考えを引き出したり、友達の意見や考えに触れたりする機会を増やす。</p>
<p>外国語</p>	<p>①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②意見を示させ、共有させる工夫【校内研究】</p>	<p>①各単元で行うスピーチ等に向け、英語で伝える内容を「考え」、その内容を英語で「書く」という活動にすすんで取り組む姿が多く見られる一方、アンケートの「授業中、すすんで学習している」という肯定的な回答92%のうち「とてもそう思う」の割合が他の学年より低く、授業の内容や進度が簡単すぎる、逆に難しすぎると感じる児童もおり、授業理解度の差が大きくなっていると考えられる。 ②スピーチを通じて自分の考えを共有することはできるが、small talkを行う際には積極的にいろいろな友達に話しかける児童と、その場から動けず、話す機会をつくることのできない児童がおり、即興で話す力・意見を示す力には個人差がある。</p>	<p>①小学校において必要な「文章を書き写す力」を伸ばすため、2学期から英文をノートに書く、へボン式で色々な人の名前を書く活動を帯活動で取り入れ、全員の書く力を伸ばす。また、学習者用デジタル教科書を用いて個々に必要な速さや内容の英文に触れる機会を増やし、各児に最適な学びを自分で選択して学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ②small talkにおいては話す相手を意図的に決め、話す場を設定する。話型を習得するために、1学期から行っている読みの宿題を2学期以降も継続し、使える語彙と実際に使う場の両方を増やして、即興で話す力・意見を示す力を伸ばす。</p>
<p>道徳</p>	<p>①主体的に自己を見つめ考えを深める授業の充実【学校経営方針】 ②多様な視点での気付き、ふり返り活動の充実～良さ・変化・生き方～【校内研究】</p>	<p>①全国学習状況調査では、「道徳で考えを深めたり話し合ったりしている」の項目において、4分の1程度の児童が否定的な回答をしていた。 ②全国学習状況調査では、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目において、3割弱の児童が否定的な回答をしていた。</p>	<p>①価値項目に対して、授業の冒頭の時点で児童のこれまでや今感じていることを書かせるようにし、授業で資料や友達の感じ方に触れ、授業の終末で児童がどのように考えたかを書かせ、冒頭と比較することで変容・深まりを実感させる。 ②道徳においては、はっきりとした正解や間違いがあるわけではなく、様々な価値や感じ方を各自がどのような重み・優先順位で捉えているかという違いを知る大切さを伝える。ペア交流やミツバチタイムでお互いの感じ方に触れる機会を確実に設定する。</p>